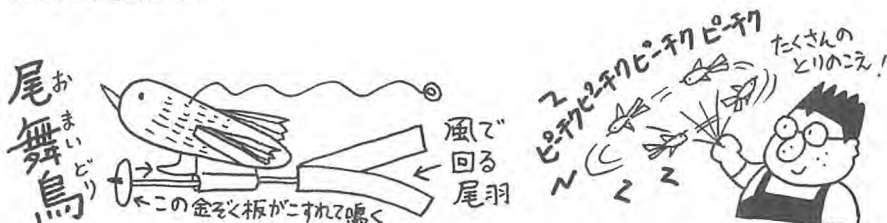


そこを訪れ散策しているとき、一人のおじいさんが小さな箱を抱えて入って来ましてね。お店の人に渡すと、お店の人が箱を開けて確認してお金を渡して、おじいさんはスタスタと出て行ってしまいましたが、その箱を見てビックリ！ 中に入っていたのは「尾舞鳥」という愛知県の郷土玩具、振り回すと小鳥の大群の声がするという、これも絶滅危惧種です！



なんて奇跡的な瞬間に出くわしたのでしょうか。あのおじいさんはおそらくおもちゃの職人さんで昔からずーっと手作りのおもちゃができるたびにこうやって問屋に卸しに来るのでしょうか。おじいさんの去った戸口を見つめて心の中で叫びました。

この店がかつて見つけた「ふりばな」も「じゃばらうちわ」もこういう職人さんの手作り品だったのでしょ。売り切れたのでまた仕入れようと思っても、もう見つかりません。作る人が亡くなったと問屋のおじいさんが言ってました。寂しい話ですね。



面白い手作りのおもちゃが飛ぶように売れる日はもう来ないのでしょうか。そんな日の再来を夢見て、絶滅しそうなおもちゃを日本中から探し集めて、消えたものは復刻して、子どもの頃におもちゃから得た感動を、職人の手仕事のすこさを今の人たちに伝えたい……。

でもそんなおもちゃ屋を今からやるのは「無謀な挑戦」なのでしょうか。店を正式に受け継ぐ日はもうすぐです。

鎌倉おもちゃ屋物語

くろすかずきよ

その6

面白駄玩具の紹介と
新米おもちゃ屋の
どたばたエッセイ!

恐竜、マンモスははるか昔の生き物ですからね。
ニホンオオカミとニホンカワウソ？
ドードー？ キタシロサイ？
よく知らないけど……、もういないんですか……。
「絶滅した動物たち」の話です。まあ時もたち、
いろんな悪条件が重なれば消えていく動物たちも
いるんだろうなと思っていたら、なんと最近では
ぞうもキリンもライオンもゴリラもパンダもカバも
動物園の人気者たち、みんな絶滅危惧種なんだそうですね。
驚きました。そんな時代が来るなんて、子どもの頃には考えもしなかったですよ。



おもちゃの世界も同じです。

暮れに仕事で金沢に行きました。金沢といえば「米食いネズミ」。
竹のバネの弾力でネズミがお米をついばむ動きをする
年賀切手にもなるぐらいの日本の有名な郷土玩具のひとつです。



学生時代に初めて金沢へ行ったとき、兼六園の前の何軒もの土産物屋の売り台に
うじゃーっとまるでタタミワシのように大群で並べて売られていたのですが、
5年後に行ったらもう店の奥のウィンドウの片隅に少しあるだけ。それから30年以上
たった今は……まあ期待どおりというか、期待してなかったとおり、でして。
2日間金沢の町中探し回って、やっと3個だけ手に入れました。工房にも行ったので
すが、今ではたった一人で作っているの、なかなか増やせないとのこと。
それでもまだ忘れられることなく全国から注文がきているのは救いがありますけど。
私が三つ買っちゃったので今、金沢には一つも無い！ まさに絶滅危惧種です。

大阪まっちゃ町（松屋町）のおもちゃ問屋の中の知る人ぞ知る1軒、
おもちゃを大袋や箱のまま倉庫大掃除中のように無造作に置いてあって、売る気があ
るのかないかわからない店なのですが、時々山積みの奥から昭和の絶滅おもちゃが
見つかったりするうれしい店です。

黒須和清 1955年東京生まれ。横浜在住。
洗足こども短期大学教授として手作りおもちゃや人形劇
を教えるかたわら、ペーパークラフトや執筆活動、研修
会講師の仕事などで忙しい。